

安全・安心な西条産畜産物を消費者へ

畜産といっても、その種別は大きく分けて、

○牛は「乳用牛」「肉用牛」

○豚は「養豚」

○鶏は「肉用鶏」「採卵鶏」

に分類されます。

西条市は県内2番目の家畜飼養頭数（下表参照）を誇り、畜産が盛んな地域です。

家畜を育て、安全・安心な畜産物を出荷する上で重要となるのは、

1. 家畜が健康であること
2. 家畜を衛生的な環境で育てること

の2点があります。

確かな技術で提供する健康でおいしい畜産物

家畜が健康であるために、家畜の状態を毎日チェックし、発育段階にあった栄養バランスの良いエサを与えたり、病気を予防するためのワクチンを接種することが大切です。

また、事故防止に努め、強い家畜がエサを独り占めしないように注意し、エサを食べる様子、ふんの色や固まり具合などをすばやく、かつ注意深く観察し、健康状態を確認しています。こうした確かな技術があって初めて、健康でおいしい畜産物を提供することが可能となります。

酪農は、牛を飼育して牛乳やチー

愛媛県内には、こだわりの飼育法で丹精込めて育てられ、柔らかな歯ごたえと、とろけるような食感の「伊予牛絹の味」、愛媛の裸麦をエサとし、甘くとろける脂身が持ち味の「愛媛甘とろ豚」、脂乗りが良く、ぷりぷりのかみごたえと、コクのある肉のうま味を実現した「媛っこ地鶏」など、他県に負けないブランド品種があります。

今回、地産地消の推進と食料自給率の向上に向け、「安全・安心」な畜産物を消費者へ提供するため、日々努力している畜産農家の取り組みについてご紹介します。

ズなどの原料となる乳を生産する仕事ですが、英語で酪農を「DAIRY」とつづるのは「DAILY（毎日）」の仕事だからともいわれるほど、日々の仕事に心を配っています。

畜産農家ではより良い畜産物の生産をめざして、家畜の育て方やエサの改良などを家畜保健衛生所や農協の指導員と相談したり、パソコンを使って毎日の家畜の状態を記録・管理したりするなど、さまざまな工夫をしています。

農家によっては品質を良くするために、トウモロコシや大豆などの穀類、大豆カスなどの油カス類、脱脂粉乳や魚粉といった動物性の飼料を与えたり、自然の恵みを受け取った牧草やエサ用の米の栽培に取り組むところもあります。

西条市内の家畜飼養頭数

平成22年2月1日時点

畜種	飼養農家戸数	飼養頭数
乳用牛	8戸	1,140頭
肉用牛	22戸	1,370頭
養豚	26戸	36,700頭
肉用鶏	1戸	16,000羽
採卵鶏	13戸	651,000羽